

青森県知事 殿

〔設置者の名称〕 学校法人 S K K

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 鈴木 直 子

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

## ○申請者に関する情報

大学等の名称	S. K. K. 情報ビジネス専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ <u>専門学校</u> )
大学等の所在地	青森県弘前市徳田町 1 番地 3
学長又は校長の氏名	校長 鈴木 直 子
設置者の名称	学校法人 S K K
設置者の主たる事務所の所在地	青森県弘前市徳田町 1 番地 3
設置者の代表者の氏名	鈴木 直 子
申請書を公表する予定のホームページアドレス	<a href="https://www.net-skk.co.jp">https://www.net-skk.co.jp</a>

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。 この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	柳 館 陽 介	0172-55-6551	y-yanagidate@skk.ac.jp
第2号の1	柳 館 陽 介	0172-55-6551	y-yanagidate@skk.ac.jp
第2号の2	柳 館 陽 介	0172-55-6551	y-yanagidate@skk.ac.jp
第2号の3	柳 館 陽 介	0172-55-6551	y-yanagidate@skk.ac.jp
第2号の4	柳 館 陽 介	0172-55-6551	y-yanagidate@skk.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	H102310000101	学校名	S. K. K. 情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 S K K		

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算			-1,274,033円
申請2年度前の決算			74,430,385円
申請3年度前の決算			2,755,827円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算			36,790,224円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	250人	169人	67%
前年度	270人	179人	66%
前々年度	320人	175人	54%

(IIの補足資料) 「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
現金・預金		36,790,224円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
支払手形		0円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	S. K. K. 情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 S K K

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	ITエキスパート学科 ITスペシャルエンジニアコース (ITスペシャリストコース)	夜・通信	1,548 時間	240 時間	
	ITエキスパート学科 Web&動画クリエイターコース (クリエイティブデザインコース)	夜・通信	2,284 時間	240 時間	
	IT・デザイン学科 ドローンエンジニアコース (ITエンジニアコース)	夜・通信	917 時間	160 時間	
	IT・デザイン学科 ITビジネスコース	夜・通信	483 時間	160 時間	
	IT・デザイン学科 デジタルデザインコース (グラフィックデザインコース)	夜・通信	1,672 時間	160 時間	
商業実務専門課程	総合ビジネス学科 登録販売者コース	夜・通信	1,546 時間	160 時間	
	総合ビジネス学科 医療事務& メディカルスタッフコース (医療事務コース)	夜・通信	439 時間	160 時間	
	総合ビジネス学科 ホテル・ブライダルコース	夜・通信	1,442 時間	160 時間	
	総合ビジネス学科 ITオフィスビジネスコース (オフィスビジネスコース)	夜・通信	1,174 時間	160 時間	
	公務員学科	夜・通信	0 時間	160 時間	※
	公務員速修学科	夜・通信	0 時間	80 時間	※

<p>(備考)</p> <p>変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度 「ITエキスパート学科 ITスペシャリストコース」から 「ITエキスパート学科 ITスペシャルエンジニアコース」にコース名変更。2・3年生在籍。</li> <li>・2023年度 「ITエキスパート学科 クリエイティブデザインコース」から 「ITエキスパート学科 Web&amp;動画クリエイターコース」にコース名変更。2・3年生在籍。</li> <li>・2023年度 「IT・デザイン学科 ITエンジニアコース」から 「IT・デザイン学科 ドローンエンジニアコース」にコース名変更。2年生在籍。</li> <li>・2023年度 「IT・デザイン学科 グラフィックデザインコース」から 「IT・デザイン学科 デジタルデザインコース」にコース名変更。2年生在籍。</li> <li>・2023年度 「総合ビジネス学科 医療事務コース」から 「総合ビジネス学科 医療事務&amp;メディカルスタッフコース」にコース名変更。2年生在籍。</li> <li>・2023年度 「総合ビジネス学科 オフィスビジネスコース」から 「総合ビジネス学科 ITオフィスビジネスコース」にコース名変更。2年生在籍。</li> </ul>
--

## 2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>ホームページへの掲載</p> <p><a href="https://www.net-skk.co.jp/inforelease/">https://www.net-skk.co.jp/inforelease/</a></p>
--

## 3. 要件を満たすことが困難である学科

<p>学科名 公務員学科、公務員速修学科</p>
<p>(困難である理由)</p> <p>公務員試験の合格を目標とするカリキュラム構成となっている。そのため授業科目を教えていくにあたって、多くは公務員の実務経験を必要とするものとは性質上異なる。公務員試験対策の授業経験のある者などによる授業を行うことが目標を実現するにあたって効果的であると考え。よって、実務経験を有する教員による授業科目は配置することは困難である。</p>

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	S. K. K. 情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 S K K

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページへの掲載  
<https://www.net-skk.co.jp/inforelease/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	理美容業務用品総合卸業 代表取締役会長兼社長	2023. 2. 2～ 2025. 2. 1	学校経営のための 意見・アドバイス
非常勤	社会福祉法人 理事長	2023. 2. 2～ 2025. 2. 1	学校経営のための 意見・アドバイス
非常勤	教育コンサルティング会社 役員	2023. 2. 2～ 2025. 2. 1	学校経営のための 意見・アドバイス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	S. K. K. 情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 S K K

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成</p> <p>4月末までに授業計画書をホームページへ掲載</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.net-skk.co.jp/inforelease/">https://www.net-skk.co.jp/inforelease/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、定期試験、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績の評価は優・良・可・不可の4段階とし、その評価基準は次のとおりとする。</p>		
評価	判定	基準
優	合格	教科に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 (定期試験80点以上、且つ教科の出席率85%以上)
良	合格	教科に対する理解および日常の授業態度が良好な者 (定期試験60～79点、且つ教科の出席率85%以上)
可	合格	教科に対する理解および日常の授業態度が妥当と認められた者 (再試験・追試験60点以上、且つ教科の出席率85%以上)
不可	不合格	合格と認められるに足る教科理解と授業態度を示さなかった者 (追試験60点未満、または教科の出席率85%未満)
<p>また、学年毎に、各学生について履修科目の評価を点数化し、4段階評価について、「優」を3ポイント、「良」を2ポイント、「可」を1ポイント、「不可」を0ポイントとして換算する。これに基づき成績分布状況を把握する。</p>		
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>ホームページに掲載 <a href="https://www.net-skk.co.jp/inforelease/">https://www.net-skk.co.jp/inforelease/</a> 学生の手引き配付</p>	
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業については、授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると卒業基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動を考慮し、卒業認定会議を経て、学校長が認定する。</p>		
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>ホームページに掲載 <a href="https://www.net-skk.co.jp/inforelease/">https://www.net-skk.co.jp/inforelease/</a> 学生の手引き配付</p>	



様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	S. K. K. 情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 S K K

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://net-skk.co.jp/inforelease/">https://net-skk.co.jp/inforelease/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://net-skk.co.jp/inforelease/">https://net-skk.co.jp/inforelease/</a>
財産目録	<a href="https://net-skk.co.jp/inforelease/">https://net-skk.co.jp/inforelease/</a>
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

## 2. 教育活動に係る情報

### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		工業専門課程	ITエキスパート学科 ITスペシャルエンジニア コース (ITスペシャリストコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2881 単位時間	920 単位時間	1871 単位時間	90 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		42人	0人	5人	6人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>〈授業方法及び内容〉</p> <p>業務アプリケーション開発、Web システム開発、機械制御システム開発担当者を目指す。システム開発に必要な基礎知識と、ネットワークやセキュリティ、Web プログラミングに関する知識と技術、資格取得を行う。</p> <p>〈授業計画〉</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。</p> <p>(4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	10人 (83.30%)	2人 (16.60%)
（主な就職、業界等） ソフトウェア開発			
（就職指導内容） （1）年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 （2）業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験 1名 基本情報技術者試験 4名 Excel 表計算処理技能検定 1級 3名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	1人	2.78%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） （1）小まめな目標設定と達成の繰り返しで、目標を作る （2）遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る （3）カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		工業専門課程	ITエキスパート学科 Web&動画クリエイターコース (クリエイティブデザイン コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2755 単位時間	824 単位時間	1931 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		9人	0人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>&lt;授業方法及び内容&gt;</p> <p>Web 業界で活躍できる Web デザイナーを目指す。デザインに関する知識、動画編集に関する知識・技術、デジタルコンテンツや Web システム開発に関するプログラミング技術と資格取得を行う。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>(1) 1 2 月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2 月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4 月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。</p> <p>(4) 4 月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が 85% 以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が 85% 未満、また、1 教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	2人 (66.60%)	1人 (33.30%)
（主な就職、業界等） 総合職			
（就職指導内容） （1）年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 （2）業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） Illustrator クリエイター能力認定試験 エキスパート 2名 Photoshop クリエイター能力認定試験 エキスパート 2名 Web クリエイター能力認定試験 エキスパート 1名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	1人	10.00%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） （1）小まめな目標設定と達成の繰り返して、目標を作る （2）遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る （3）カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業分野	工業専門課程	IT・デザイン学科 ドローンエンジニアコース (ITエンジニアコース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1888 単位時間	640 単位時間	1216 単位時間	32 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	23人	0人	7人	4人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>&lt;授業方法及び内容&gt;</p> <p>オペレータとしての操作技術と正しい知識を身につけ、多分野で求められるドローン操縦士を目指す。ドローンの操作技術とIT技術、映像編集を学び、技術習得と資格取得を目指す。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。</p> <p>(4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	15人 (93.70%)	1人 (6.20%)
（主な就職、業界等） ソフトウェア開発、製造			
（就職指導内容） (1)年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 (2)業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験 3名 Excel 表計算処理技能検定 1級 4名 Web クリエイター能力認定試験 エキスパート 2名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	0人	0.00%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） (1)小まめな目標設定と達成の繰り返して、目標を作る (2)遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る (3)カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		工業専門課程	IT・デザイン学科 ITビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	830 単位時間	204 単位時間	626 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		6人	0人	7人	3人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>&lt;授業方法及び内容&gt; 企業内のIT、セキュリティに強い担当者、事務職を目指す。コンピュータ知識や情報セキュリティ、簿記会計などビジネススキルの知識・実技と資格取得を行う。</p> <p>&lt;授業計画&gt;  (1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成  (2) 2月までに次年度カリキュラムを確定  (3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。  (4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立っている。</p>



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	12人 (92.30%)	1人 (7.60%)
（主な就職、業界等） 総合職、営業職			
（就職指導内容） （1）年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 （2）業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日商簿記検定3級 1名 Word 文書処理技能検定 1級 2名、2級 8名 Excel 表計算処理技能検定 1級 3名、2級 12名 ビジネス実務マナー検定 2級 3名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	1人	5.00%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） （1）小まめな目標設定と達成の繰り返しで、目標を作る （2）遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る （3）カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		工業専門課程	IT・デザイン学科 デジタルデザインコース (グラフィックデザイン コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1863 単位時間	541 単位時間	1322 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		20人	0人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>〈授業方法及び内容〉</p> <p>印刷物を中心としたグラフィックデザイナーと、Web サイト、Web 広告などを学び、幅広く活躍できるデザイナーを目指す。デザインに関する知識とアプリケーション操作に関する実技と資格取得を行う。</p> <p>〈授業計画〉</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。</p> <p>(4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	10人 (83.30%)	2人 (16.60%)
（主な就職、業界等） DTPオペレータ、デザイン職、技術職、事務系総合職			
（就職指導内容） (1)年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 (2)業界・職種研究の為に企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） Illustratorクリエイター能力認定試験 エキスパート 1名 Photoshopクリエイター能力認定試験 エキスパート 1名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	0人	0.00%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） (1)小まめな目標設定と達成の繰り返して、目標を作る (2)遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る (3)カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業分野		商業実務専門課程	総合ビジネス学科 登録販売者コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1877 単位時間	1038 単位時間	785 単位時間	54 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		12人	0人	7人	5人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>&lt;授業方法及び内容&gt; ドラッグストア、調剤薬局での登録販売者を目指す。登録販売者試験を中心に、医薬品や販売に関する知識と資格取得を行う。</p> <p>&lt;授業計画&gt;  (1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成  (2) 2月までに次年度カリキュラムを確定  (3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。  (4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	5人 (83.30%)	1人 (16.60%)
（主な就職、業界等） 総合職（ドラッグストア業界）			
（就職指導内容） （1）年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 （2）業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 登録販売者試験 6名 調剤事務管理士技能認定試験 6名 薬学検定 6名 日本化粧品検定 6名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0.00%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） （1）小まめな目標設定と達成の繰り返しで、目標を作る （2）遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る （3）カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業分野		商業実務専門課程	総合ビジネス学科 医療事務& メディカルスタッフコース (医療事務コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1809 単位時間	616 単位時間	1163 単位時間	30 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		12人	0人	5人	4人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>〈授業方法及び内容〉</p> <p>病院、クリニック等での医療事務、医師事務作業補助を目指す。診療報酬の算定、レセプトの作成、接遇等に関するの知識と資格取得を行う。</p> <p>〈授業計画〉</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。</p> <p>(4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0.00%)	0人 (0.00%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） （1）年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 （2）業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0.00%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） （1）小まめな目標設定と達成の繰り返しで、目標を作る （2）遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る （3）カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業分野		商業実務専門課程	総合ビジネス学科 ホテル・ブライダルコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1788 単位時間	882 単位時間	813 単位時間	93 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		9人	0人	6人	4人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>&lt;授業方法及び内容&gt;          ホテルスタッフ・レストランサービススタッフ、ウエディングプランナー、ドレスコーディネーター等を目指す。ホテル業務、ブライダル業に関する知識、料飲サービス、プランニング、外国語に関する実技と資格取得を行う。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成          (2) 2月までに次年度カリキュラムを確定          (3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。          (4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。          (2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。          (3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。          (2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。          (3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100.00%)	0人 (0.00%)
（主な就職、業界等） サービス職（ホテル業界、料飲サービス）			
（就職指導内容） （1）年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 （2）業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ウエディングプランナー認定試験 5名 ホテル実務技能認定試験 上級 5名 インバウンド接客外国語検定（中国語） 5名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	0人	0.00%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） （1）小まめな目標設定と達成の繰り返して、目標を作る （2）遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る （3）カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業分野		商業実務専門課程	総合ビジネス学科 ITオフィスビジネスコース (オフィスビジネスコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1806 単位時間	673 単位時間	1133 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		20人	0人	8人	5人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>&lt;授業方法及び内容&gt;</p> <p>企業の総務・経理・営業補助や販売員の就職を目指す。パソコンスキル、簿記、販売知識、コンピュータ知識や情報セキュリティ、ビジネスマナー等に関する知識と資格取得を行う。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。</p> <p>(4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100.00%)	0人 (0.00%)
（主な就職、業界等） 総合職、一般職、販売スタッフ			
（就職指導内容） (1)年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 (2)業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 秘書検定試験 2級 3名 Word 文書処理技能認定試験 2級 3名 Excel 表計算処理技能認定試験 1級 1名、2級 3名 所得税法能力検定試験 2級 1名 ビジネス文書技能検定試験 2級 1名 ビジネス実務マナー検定試験 2級 1名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	2人	13.33%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） (1)小まめな目標設定と達成の繰り返しで、目標を作る (2)遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る (3)カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業分野		商業実務専門課程	公務員学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2153 単位時間	1062 単位時間	1091 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		13人	0人	4人	6人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>&lt;授業方法及び内容&gt;</p> <p>国家・地方公務員試験に出題される教養試験、面接・作文対策を主とした授業。2年間でじっくりと学ぶ。その他、社会人として必要なビジネスマナー、会計業務、書類作成に必要なPCスキルを習得する。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。</p> <p>(4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	6人 (75.00%)	2人 (25.00%)
（主な就職、業界等） 地方公務員、総合職			
（就職指導内容） (1)年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 (2)業界・職種研究の為の企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 公務員試験合格 5名 ビジネス実務マナー検定 3級 7名 Word 文書処理技能検定 1級 3名、2級 3名 Excel 表計算処理技能検定 1級 3名、2級 3名 全経簿記 3級 1名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0.00%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） (1)小まめな目標設定と達成の繰り返して、目標を作る (2)遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る (3)カウンセラーによるカウンセリングの実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業分野		商業実務専門課程	公務員速修学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	1016 単位時間	497 単位時間	519 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		1人	0人	4人	6人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>&lt;授業方法及び内容&gt;</p> <p>国家・地方公務員試験に出題される教養試験、面接・作文対策を主とした授業。短期集中で合格を目指す。その他、社会人として必要なビジネスマナー、会計業務、書類作成に必要なPCスキルを習得する。</p> <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>(1) 12月末までに次年度カリキュラム案を完成</p> <p>(2) 2月までに次年度カリキュラムを確定</p> <p>(3) 4月中旬までに、各学科の科目担当教員が授業計画書を作成。</p> <p>(4) 4月末までに授業計画書をホームページに掲載</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績の評価については、以下の方法・基準に沿って行う。</p> <p>(1) 成績の評価は、「優・良・可・不可」の4段階とし、「可」以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は、科目ごとに出席状況、期末テスト、学習態度、課題提出状況を含め、総合的に評価する。</p> <p>(3) 科目の出席率が85%以下の場合、点数に関わらず「不可」とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>授業全体における出席率が85%未満、また、1教科でも不可評価があると基準を満たしていないこととする。ただし、平素の学習状況や、インターンシップ・ボランティア・同好会・生徒会・コンテストや大会の入賞等の課外活動状況を考慮し、認定会議を経て、学校長が認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>(1) 各学科で担当を配置し、学習面・生活面・就職面等のフォローを行い、状況に応じて、保護者を含めた面談を行っている。</p> <p>(2) 専門的な知識、技術を有する授業については外部講師等を用い、専門性に特化した授業を行っている。</p> <p>(3) 実習については、企業と連絡を取り合い、学生の状況を共有し、指導に役立てている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100.00%)	0人 (0.00%)
（主な就職、業界等） 国家公務員、地方公務員			
（就職指導内容） (1)年間を通して、筆記試験対策・面接練習等の実施。 (2)業界・職種研究の為に企業講話・ガイダンスの実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 公務員試験 合格 2名 ビジネス実務マナー検定 3級 2名 Word 文書処理技能検定 2級 2名 Excel 表計算処理技能検定 2級 1名、3級 1名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0.00%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） (1)小まめな目標設定と達成の繰り返しで、目標を作る (2)遅刻欠席が目立つ学生は保護者面談を行い、家庭での協力を得る (3)カウンセラーによるカウンセリングの実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
I Tエキスパート学科 I Tスペシャルエンジニアコース (I Tスペシャリストコース)	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
I Tエキスパート学科 Web&動画クリエイターコース (クリエイティブデザインコース)	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
I T・デザイン学科 ドローンエンジニアコース (I Tエンジニアコース)	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
I T・デザイン学科 I Tビジネスコース	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
I T・デザイン学科 デジタルデザインコース (グラフィックデザインコース)	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
総合ビジネス学科 登録販売者コース	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
総合ビジネス学科 医療事務&メディカルスタッフ コース (医療事務コース)	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
総合ビジネス学科 ホテル・ブライダルコース	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
総合ビジネス学科 I Tオフィスビジネスコース (オフィスビジネスコース)	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
公務員学科	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
公務員速修学科	150,000 円	600,000 円	300,000 円	その他：教育充実費
修学支援 (任意記載事項)				



b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページへの掲載 <a href="https://www.net-skk.co.jp">https://www.net-skk.co.jp</a>		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学校が行った自己評価の結果を学校関係者評価委員に報告し、意見をいただき、その意見をもとに教育活動及び学校運営に活用することを基本方針とする。 評価項目は、自己評価、学生数状況、就職状況、離職状況等。 学校関係者評価委員は、本校と関わりのある業界関連企業、本校卒業生にて構成する。 評価の活用にあたっては、責任者である校長の指揮のもと、各部署責任者が方法・期間等を検討し、次年度の学校運営及び教育内容の改善に反映する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
サービス系企業経営者	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	企業等委員
サービス系企業経営者	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	企業等委員
医療・福祉系企業経営者	2020. 4. 1～ 2024. 3. 31	企業等委員
販売系企業経営者	2020. 4. 1～ 2024. 3. 31	企業等委員
弘前市議会議員	2020. 4. 1～ 2024. 3. 31	企業等委員
S. K. K. 情報ビジネス専門学校 同窓会会長	2020. 4. 1～ 2024. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページへの掲載 <a href="https://net-skk.co.jp/inforelease/">https://net-skk.co.jp/inforelease/</a>		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページへの掲載 <a href="https://net-skk.co.jp/inforelease/">https://net-skk.co.jp/inforelease/</a> 学校案内の配付
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H102310000101
学校名	S. K. K. 情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 S K K

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		51人	47人	98人
内 訳	第Ⅰ区分	30人	33人	
	第Ⅱ区分	11人	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				98人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間		前半期	0人 後半期 0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
3月以上の停学	0人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		-	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。